

沖縄の自然遺産を護る「わたしたちのアクションプラン」

「世界自然遺産に指定されることは、沖縄にとって、本当にハッピーなことか？」
「それを担う私たちにとって、どのような護り方がベストか？」
生徒が自分事として考えたアイデアを、訪れる世界中の人たちに発信。

対象：1年生 118名
3クラス
フロンティアコース

■ 年間カリキュラム

- 総合的な探究の時間（35時間）
- 活用テーマ：導入、まち、伝統継承、共生、まとめ
- 学校テーマ：わたしたちは、世界自然遺産をどのように護るのがベストか
・自分たちの地域が誇る世界遺産に対して、どのようにかかわっていくのかを1年間を通して考える。



本教材を活用し、沖縄の自然遺産について「自分たちにとっての『伝統継承』『訪れる様々な人たちと交流する『まち』『自然・文化との『共生』』という視点から考えさせた。その後、フィールドワークを通して自分なりのプランを考え、2月に沖縄美ら海水族館で訪れる多くの人たちにアイデアを発信した。

活用のアドバイス

沖縄には「駅」がない。しかし、「多くの人たちが集い・交流する」という見方をすれば、「私たち沖縄の人と、訪れる国内外の人がクロスする場所」として考える「よい題材」にすることができます。同様に他のテーマも「様々な視点を獲得させる」よう活用したことで、ICTをかけ合わせ、二次元バーコードでゲームを提供するなど、多様なアクションプランのアイデアにつながりました。



■ 探究エピソード紹介

「支援者システム」によるグループ編成

生徒一人一人の探究心の尊重と、現実的な運用面でのグループ化にはジレンマがあります。そこで有効なのが、「自分はこう考える」というプレゼンテーションをさせ、それに対して「これだったら支援したい」と考える生徒でグループをつくる「支援者システム」です。志を一つにしたグループ探究では、支援者のアイデアもプランに入っていくことが多く、充実したグループ探究が実現します。



↑オンラインで支援を求めるグループのプレゼンを聞く様子

研究主任 國吉先生から『探究』へのアドバイス！

とにかく「考え抜く」。そのために必要なのが「自分の思考を言語化」させること。

探究とは、「考えること」だと思います。今の生徒たちは「output、生み出す」のが苦手。主張したいこと・やりたいことが伝えられない。その原因には「論理的に考える」訓練が不足していることがあると考えています。しかし、それが求められるのがこれからの時代。探究の時間では、とにかく「考え抜く」ことを繰り返して、それを鍛えていきたいと思っています。そのためには、「自分の思考を通して言語化させる」ことを徹底的に繰り返しています。また生徒たちには、探究に取り組む際に「自分がどういう立場として、社会で活躍したいのか。生業としたいのか」を意識させることを大切にしています。このように「考え抜かせる」ことが、グローバルな世界で戦える素地をつくることにつながると考えています。

「やんばるステーション」の開設



- どういった役割を担う場所？
- ・自然環境を守り、次の世代へと継承していくための拠点
 - ・「やんばる」を知ってもらうための拠点
 - ・国内外の人たちと地域住民が交流する拠点

- ・新しい建物を作らない。(トイレなど)
→地域のコンビニエンスストアと連携
- ・多様な生物を体感。
→夜行性の生物はエリア毎に映像でみれる
- ・資料などの紙媒体などをなくす
→エコツーリズムになる

